今月のトピックス

特集 会社訪問 -No.17
株式会社石原運輸 様

「親・子・孫の３代で積み重ねた長年の実績 ES（従業員満足度）を大切にさらなる飛躍へ

若くして社長に就任し、長年業界のために奮闘を重ねてきた父に安心してもらえるように、３代目社長として精力的に社業に取り組む石原敏和代表取締役社長が率いる、株式会社石原運輸（千葉県柏市）。
石原社長は、「人を大事にしなければならない」との強い思いから、将来の同社を支える人材の育成に力を注いでいる。また、石原社長は今年千葉県トラック協会理事に就任しており、業界のさらなる発展に向けても邁進していく構えだ。

歴史ある会社の３代目社長として活躍する石原敏和社長

■「人がいないと会社はうまく回らない」 従業員に寄り添いながら人材育成に注力

柏市に本社を構える㈱石原運輸（石原敏和代表取締役社長）は、さつまいも等の輸送を行うために昭和３年に松戸市内で創業したことが、その歴史の始まりである。昭和 29 年７月 20 日に初代社長の石原重一氏が㈲石原運輸を設立、昭和 44 年に重一氏の息子である石原敏男氏（現･会長）が、大学卒業とともに、若くして同社の２代目社長に就任している。重一氏の孫にあたる石原社長は、その時はまだ生まれて４か月目だったという。

石原社長は、幼いころからいずれ同社の３代目社長として働きたいという夢を持っていた。しかし、大学卒業を間近に控え、「卒業してすぐにうちの会社に入るのではなく、違う世界で経験や知識を蓄積した上で入社したい」という強い思いを抱いていた。そこで、敏男会長に「大学卒業後、５年でいいから社外での経験を積みたい」と懇願し、都市銀行に入行。４年余りの社会勉強を経てから平成７年７月に 26 歳で同社に入社。２年間専務として敏男会長のもとで経営を学び、９年に同社の社長に就任した。

敏男会長は千葉県トラック協会で要職を歴任していたこともあり、協会活動にも熱心に取り組んでいた。社長に就任してもハンドルを握っていたある日、石原社長は敏男会長に「勉強になるから」と勧められ、柏支部（支部長　常南通運㈱岡野哲也社長）の青年部会に参加。活動を続けるうちに千葉県、関東、そして全国の同業他社の次期経営者層とのネットワークができていったという。

「青年部会での活動を通じて、業界の諸先輩方の偉大さを改めて認識できたとともに、『当社の取り組みはまだまだだ』と痛感しました。協会活動を通じてネットワークを広げていくことは、非常に重要だと感じています」（石原社長）

石原敏和代表取締役社長

業界の発展のために力を注いできた敏男会長。その姿を長年そばで見続けてきた石原社長も、父親と同じ道を歩もうとしている。石原社長は今年６月、千葉県トラック協会の理事に新たに就任した。

「任重くして、道遠し。理事として、しっかりと責務を果たしていきたいと考えています」（同）

３代目社長に就任以来 23 年間同社をけん引してきた石原社長。経営を行う上で最も大事にしていることは、「従業員に寄り添う」ことであるという。

金融機関は一般的にプレッシャーの強い職場であることが多く、石原社長も銀行マン時代は大きな緊張感と日々対峙しながら、職責を果たしてきた。そうした経験があったこともあり、社長に就任してしばらくは、業績のさらなる向上を図るため、部下にプレッシャーをかけるようなこともあったという。その結果、同社の業績は向上したが、社内の雰囲気は次第にピリピリしたものになっていった。

石原社長は「自分一人では何もできない、人がいないと会社はうまく回らない」と痛感。社員の立場に立って物事

先代社長の石原敏男会長（写真左）。時には「経営の先輩」として、石原社長から会長に相談することも。

輸送の現場を担う同社の幹部社員。嘱託スタッフ（左から４人目）も最前線で奮闘している。自称三代目石原軍団。

毎月開催される「運輸健康・安全企画会議」では、輸送のさらなる安全性向上に向けて議論を交わす。

を考えるとともに、ES（従業員満足度）を重視した経営にかじを切っていった。

「従業員に寄り添う」同社の姿勢は、安全教育の面でも明確に表れている。同社で新人ドライバーを採用した際には、まず初任教育として、石原社長が講師となって座学を行う。その際には、同社の従業員としてあるべき姿を詳細に記した「ルールブック」を渡すとともに、石原社長と新人ドライバーが一緒に読み合わせを行うことにしている。ルールブックでは、難解な用語に対してはより分かりやすい表現で説明書きがなされているなど、これまでトラック運送業界での経験のない新人ドライバーでも理解しやすいような工夫が凝らされている。また、添乗教育の際にも、指導員から積極的に胸襟を開き、できるだけ新人ドライバーに寄り添いながら指導を行うようにしている。

「初任教育は、新人ドライバーに『この会社に来てよかった』と安心感を抱いてもらい、会社に愛着を持って長く勤めてもらうためのまたとない機会だと考えています。指導においても、高いレベルから難しい言葉を使って指導するのではなく、話の内容をかみ砕き、初任者の立場に立って分かりやすく説明することが、新人ドライバーの不安感の払しょくに繋がります」（同）

石原社長は、自社を「人を育てる会社ではなく、育てられる人を育てる会社にしていきたい」との思いから、従業員教育を担うことのできる管理職の育成にも力を注いでいる。同社では今年新たに、親族以外から取締役と執行役員を登用しており、同社の従業員にとっても、「頑張ればさらに上を目指せる」という、いいお手本になっているという。

さらに、「従業員に寄り添う」観点から、同社では従業員の働き方改革にも取り組んでいる。かつては車両の稼働率を重視するあまり、従業員が休みを取りづらい状態であった。しかし、この２、３年で、従業員の休日数を充実させる方向に転換した。

限られたドライバー数で、休日数を増やすとなると、休んだドライバーの穴をどのように埋めるかが課題となってくる。そこで同社が進めているのが「嘱託スタッフの活用」である。同社では 65 歳定年制をとっているが、健康状態に問題がなければ定年を迎えた従業員を引き続き嘱託スタッフとして継続採用している（現在４人が嘱託スタッフとして在籍）。経験豊富な嘱託スタッフを効果的に活用することで、従業員が休みを取りやすい職場環境の実現に繋がっている。

４年後には設立 70 周年を迎える同社。最後に、今後に向けた思いについて、石原社長に伺った。

「当社は設立から間もなく 70 年、そして創業から数えると 100 年近くになりますが、これからも、世の中から必要とされ続けなければならないと考えています。『e（excellent= 卓越した、優秀な）仕事をしよう !!』をスローガンに、サービスの品質ナンバーワン企業を目指していきます」（同）

ホットにゅーす

趣味の DIY で DPF クリーニング装置を自作 笑顔の源泉となる妻の大きな存在

石原社長の趣味のひとつは DIY で、時間があればいろいろなものを自作している。最近では、趣味が高じて DPF クリーニング装置を自作（写真上）。また、トラックの荷台補修なども自ら行っているという。

もうひとつの趣味は、文恵夫人（女子部会副部会長）と全国の美味しいものを食べ歩くことだという。

「我が社の総務部長（妻）は、従業員や私にとって笑顔の源泉。私たち夫婦は、従業員にとって家庭円満のお手本でありたい」と、石原社長は笑顔で語った。

企業プロフィール
株式会社石原運輸
代表取締役社長　石原　敏和
千葉県柏市高柳 1143 番地５（本社）
千葉県柏市鷲野谷 1028-27
（主たる事務所）
従業員　35 人（ドライバー 28 人）
台数　23 台